2025年6月20日発行　通算396号

2025年 6月号 | No.396

ボランティア・市民活動を広げ、応援する！

ネットワーク

特集

めざせ！ ごみ捨て名人

東京ボランティア・市民活動センター

思い立ったが ボラ日（じつ）

このコーナーでは、
毎回一つの団体を取材し、
活動内容やそこで活動
するボランティアさんの
生の声をお届けします。

ヘアドネーションにトライ！
～子どもたちの医療用ウィッグのために～

ネットワーク　編集部

がんや事故などのさまざまな理由で頭髪に悩みがある子どもたちがいます。ヘアドネーションとは、髪の寄付をすること。受け入れ団体は寄付された髪の毛から医療用ウィッグを製作して、子どもたちに無償提供を行っています。今回は、当センターのスタッフEが3度目のヘアドネーションに挑戦。美容院のご協力をいただいて寄付までの一連を取材しました！

ヘアドネーションの経験者、現在計画中のスタッフとともに
自作の賞状を持って撮影。当センターのフリースペースにて。

STEP1　髪の毛をのばす

ヘアドネーションはアメリカで始まり、日本では2009年にNPO法人Japan Hair Donation & Charity（JHD&C）が始め、現在は複数の団体があります。

スタッフEは3年間髪をのばしたそうです。寄付するまでに長い年月がかかりますが、Eいわく「ヘアカラーした髪でもOKなので（受け入れ団体による）、軽く見えるよう明るい色にしていました。また、ヘアバンドをしたり、髪を結ったりと、長髪だからこそできることを楽しみました」

STEP2　髪の毛を切る

今回は、ヘアドネーションの賛同サロンをJHD&Cのウェブサイトで検索。美容院に電話で予約を取りました。少しの湿り気もカビや雑菌の原因となるため、当日の洗髪はしないなど、サイトの注意事項を読みます。

予約当日。担当していただいたスタイリストの富岡奈奈さんと希望のヘアスタイルを相談し、いざカット！　まずは、寄付する分の髪を切ります。

この美容院では、成人式などのセレモニーを終えた人や、ヘアドネーションを自由研究にする学生や、小学生も訪れたこともあったそうです。ドネーションの際、留意すべきは髪の長さ。「カット後の髪の長さを考慮していなくて、31㎝に満たないことがあります」と富岡さん。31㎝は、医療用ウィッグを製作できる最低限の長さ。ロングヘアを希望

❶ ヘアドネーションの賛同サロンを探す。

❷ 仕上がりの髪型を相談。

❸ 小分けにしてゴムで留める。ゴムの１cmほど上を切る。そこから31cm以上が必要。

❺ 完成間近。希望に合わせて似合う髪型にととのえる。丁寧な手仕事！

❻ お代を払って切った髪を受け取る。髪がつやつやヘアで天使の輪が！

測ってみました。

髪を計測。40cmありました。自分の部屋で集めた抜け毛もOKとのこと。60cm以上のもありました(右端)。

❼ 発送前チェックをして、髪と書類を梱包し、発送！

比べてみました。ビフォーアフター！

する子どもは多く、髪が長いほど需要があるそうです。スタッフEの髪は40㎝を超えていました。

通常のカット料金で施術してくれる美容院が多いようですが、事前に確認しておくと安心です。また、寄付用の髪を切る時間に加え、ドナー（寄付者）が久しぶりのショートヘアにするため、仕上がりを相談したり、髪のくせを見ながら切るので、通常カット＋30分ほどみておくとよいそう。

STEP3　髪の毛を発送する

帰宅後に発送準備をして、JHD&Cのサイトにある「ドネーションヘア発送前の最終チェック！」を確認。必要なものを梱包し、ポストに入れて完了です！ 料金はドナーの負担となります。

STEP4　自分をほめてあげる

ドナーは、JHD&Cのサイトから「サンキューカード」を受け取り、個人のSNSに投稿したり、携帯電話の待ち受け画面として利用することができます。思い出や自分へのご褒美として楽しんでみてはいかがでしょう。

もし、病気の治療で急に髪の毛が抜けたら、簡単に受け入れるのは難しいことと思います。ウイッグがあることで、好きな髪形を楽しんで、どこかで笑顔になっている子がいたらいいなと思います。髪を伸ばすことなら、あなたもチャレンジできるかも。髪が長い方は、抜け毛を集めての寄付もできますし、ヘアドネーションを検討してみませんか。（スタッフE）

NPO法人
JHD&C
WEB SITE

もくじ CONTENTS

ボランティア・市民活動を広げ、応援する！
ネットワーク
2025年6月号 No.396

特集 めざせ！ ごみ捨て名人

5 “良質な紙ごみ”の提供者になろう
◇東多摩再資源化事業協同組合

8 ごみを資源化し続けるために
◇町田市バイオエネルギーセンター

11 ごみの分別から学ぶこと
◇江尻 京子　東京・多摩リサイクル市民連邦／本誌編集委員

15 ごみをめぐるアレ&コレ

1 思い立ったがボラ日
ヘアドネーションにトライ！　～子どもたちの医療用ウィッグのために～
◇ネットワーク 編集部

17 TVAC相談窓口から　1年間の相談を振り返って（2024年度）

21 せかいをみる⑭
台湾の言語運動を通して考える日本の「ことば」
◇吉田 真悟　一橋大学大学院言語社会研究科 講師

23 東京しまじま物語　小笠原諸島 父島・母島の巻
ちょっと遠いけど…それがいい！

25 いいもの みぃ～つけた！ Vol.54
カラフル♪ メジロックの雑貨たち
◇社会福祉法人東京都手をつなぐ育成会
豊島区立目白生活実習所・目白福祉作業所

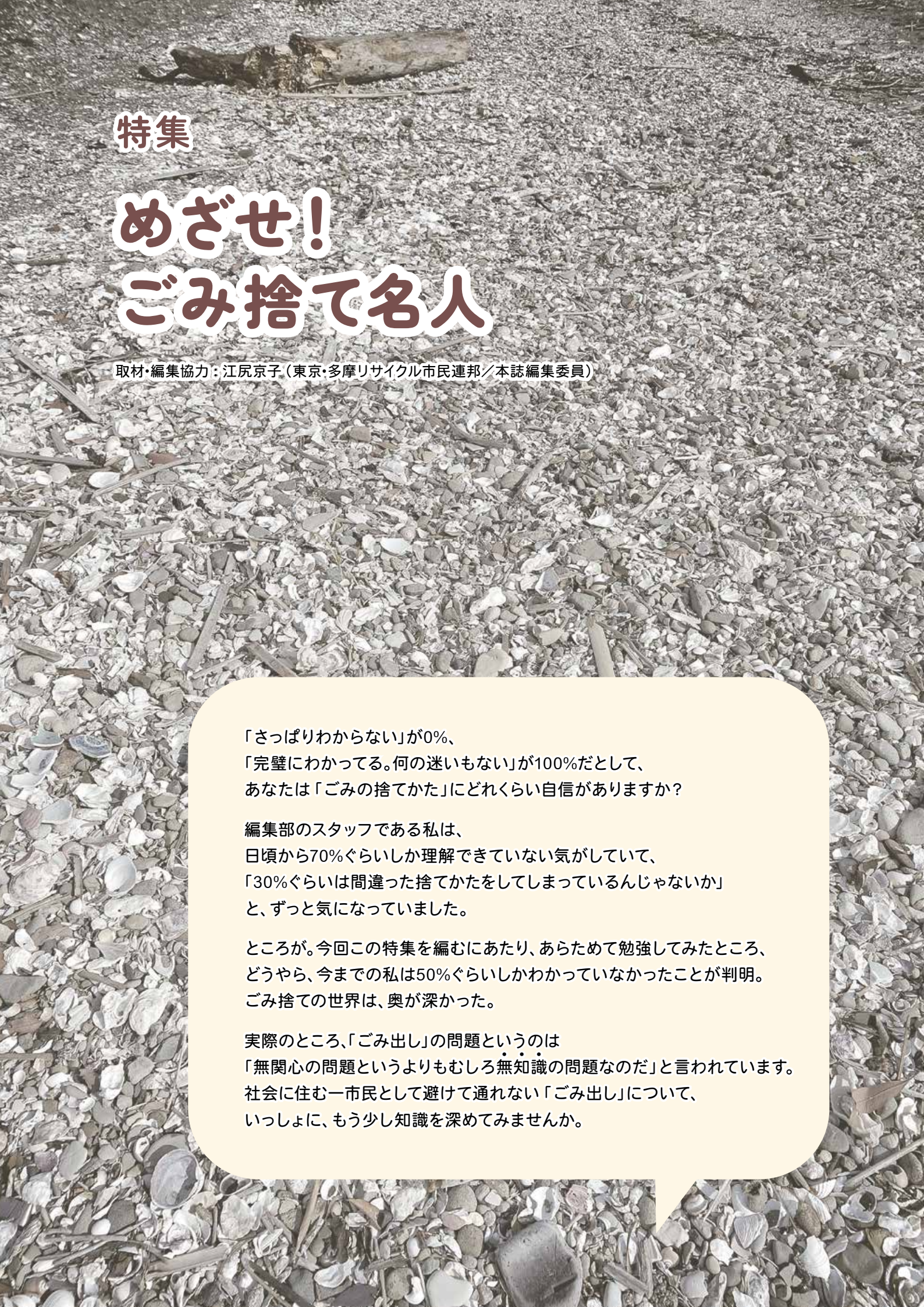
表紙のことば

薄着になると心が軽くなる。
くつ下を脱いで水に足を漬けたくなる。
おたまじゃくしは蛙になり、
サナギは蝶になり、
若いひとは華やかに力強く、
若くない私に未来を見せてくれる。
—フローラル信子

もしもボランティア活動中にケガをしたら…
ケガをさせたり、物を壊したら…

※ボランティア保険および行事保険の加入は、東京都内の各区市町村のボランティアセンターまたは東京都社会福祉協議会窓口で手続きができます。

東京都社会福祉協議会指定生損保代理店
有限会社 東京福祉企画
〒162-0825 東京都新宿区神楽坂1-2
研究社英語センタービル 3階
TEL. 03-3268-0910
FAX. 03-3268-8832



特集

めざせ！ごみ捨て名人

取材・編集協力：江尻京子（東京・多摩リサイクル市民連邦／本誌編集委員）

「さっぱりわからない」が0%、
「完璧にわかってる。何の迷いもない」が100%だとして、
あなたは「ごみの捨てかた」にどれくらい自信がありますか？

編集部のスタッフである私は、
日頃から70%ぐらいしか理解できていない気がしていて、
「30%ぐらいは間違った捨てかたをしてしまっているんじゃないか」
と、ずっと気になっていました。

ところが。今回この特集を編むにあたり、あらためて勉強してみたところ、
どうやら、今までの私は50%ぐらいしかわかっていなかったことが判明。
ごみ捨ての世界は、奥が深かった。

実際のところ、「ごみ出し」の問題というのは
「無関心の問題というよりもむしろ無知識の問題なのだ」と言われています。
社会に住む一市民として避けて通れない「ごみ出し」について、
いっしょに、もう少し知識を深めてみませんか。

“良質な紙ごみ”の提供者になろう

（株）三栄サービスの紙分別現場。「雑がみ」から再生に適合しないものをはね、ビニール紐等も取り除いていく。

雑誌や段ボール、牛乳パック、ケーキやピザの箱…たくさんの紙製品・紙包装を使った生活からは、その分だけ紙ごみが生まれる。こうした状態や質感が様々な紙ごみを捨てる時、この分別で合っている？とわからなくなることはないだろうか。

こうした疑問には、紙ごみがどう処理され、再生紙製品として生まれ変わるかを知ることがヒントになりそうだ。今回は、各市行政より委託を受けた資源物回収事業者の組合である、東多摩再資源化事業協同組合専務理事の紺野琢生（たくお）さんに協力を頂き、編集委員の江尻氏と編集部で東村山市内の紙ごみの回収に同行の後、お話を伺った。

回収現場で困っていること

東村山市では、各住宅の前に出されたごみを回収する戸別回収の方法をとっている。住宅街の狭い道を小型トラック2台が連なり、回収していく。

朝10時前頃、1件の家の前で、回収業者が段ボールの中を探っていた。「段ボールの中に雑がみが入っていると、回収中に分別をしなければならず、回収に時間がかかってしまうんです」と紺野さん。

段ボールの中に対象外のものが紛れていると、時には事故につながることもある。その一つが、小型家電製品や小型バッテリーに使われるリチウムイオン電池だ。最近の事例では小型ゲーム機が怖かった、とのこと。焦げ臭さから異変に気付いて確認すると、段ボールの中に混ざっていた小型ゲーム機から煙がくすぶり、火事寸前だったという。こうした混入を防ぐためにも、段ボールはつぶしてから出してほしいとのこと。

回収された紙ごみはどこに行くの？

10時半ごろになると、回収車が次々と処理場に到着し、紙ごみを排出していく。処理場には最近回収された紙ごみが山積みになっており、ここからベルトコンベアでプレス機へと引き揚げられ、圧縮され、塊になる。

塊になった紙ごみは再生紙工場へ原料として提供され、ミキサーのような機械によって溶かされ、古紙パルプと呼ばれるドロドロした紙料となる。その後、再生紙製品に加工される。どの原料がどの再生紙製品になるかは、図のように分類することができる。

分別カテゴリ&製品の図　出典：『きちんと分けて、また会いたいね』／（公財）古紙再生促進センター

紙ごみを資源として活かすためには？

紙ごみがこうして再生紙製品の原料になっていることを考えると、資源として活かすことが大事になってくる。紺野さんたち回収業者は私たちから見れば「資源ごみを回収してくれる人」だが、再生紙製品のメーカーから見れば「原料を提供する卸問屋」なのだ。原料を提供する立場から見て、「必ず守ってほしいポイントは3点ですね」と紺野さん。

①油のしみた紙はダメ！

工場で溶かされ、古紙パルプとなる際に油が浮いてきてしまう。

例）ピザの箱

②ニオイのしみついた紙もダメ！

再生紙製品に匂いが移ってしまう可能性がある。

例）線香の箱、柔軟剤の入っていた段ボール

③大分類（新聞、雑誌、雑がみ、段ボール、紙パック）を守り、対象外のものを混入しない！

対象外のものとして、割り箸、マスク、使用済みのティッシュなどが入っていることがあるという。また、紙と紙の間に隠すようにプラごみが

（左）収集された段ボールがベルトコンベアに乗ってベーラー（右上の装置）へと運ばれていく。（中）ベールに加工され出荷を待つ段ボール。（右）こちらは「雑がみ」のベール。

（右）収集に同行させていただいた。段ボール用・雑がみ用の収集車2台で収集してまわる。屋根の上を使って古着も収集。
（左）洗剤や線香など匂いのついた紙類。「雑がみ」に混入していたものだが、これらは再生できず、燃料として使われることになる。

挟まっている等、確信犯に思われるケースは行政に指導をお願いしたこともあるそうだ。

複雑な紙ごみにどう向き合う？

前ページで挙げた3点以外にも、紙ごみに混ぜないよう案内されているものがたくさんある。この背景には、再生紙製品のメーカーによって基準が様々で、それを網羅しようとすると出してはいけないものが増えてしまうという事情がある。

また、意外と分かりづらさの元になっているのが紙リサイクルマークだ。このマークは重量比50パーセント以上が紙であるものにつけられており、マークがついていても実際には紙資源にならないものもある。カップ麺のふたや、梱包に使われる気泡緩衝材「プチプチ」と一体化した封筒などがその例だ。それではマークの意味が無いのでは、という疑問が生まれるが、江尻氏によれば自治体によっては紙リサイクルマークが収集の基準となっているとのこと。

このような紙ごみの出し方の複雑さから、これは出してもいいんですか？という市民からの問い合わせも多いが、答え方は難しい。混ぜないよう案内されているものも、実際にはごく少量であれば処理する上で問題にならないものが多い。しかし、それをそのまま伝えてしまうと、自分に都合のいいように拡大解釈をされるかもしれない。その人が周囲に広める中で、さらなる拡大解釈をされる恐れもある。

そうした中で、次の話がよりどころになりそうだ。「私たちは（不要なモノを引き取ってもらう対価として）資源を提供している、言ってみれば資源提供業者なので、出すものの品質にも気を配るのは当然」と江尻氏。紺野さんは「ごみは買わないですよ」と続ける。資源として活かすための3点を守りつつ、資源提供業者としてどうか？という視点を持って、分別の仕方を振り返りたい。

お話をうかがった紺野琢生（たくお）さん
（官公需適格組合 東多摩再資源化事業協同組合 専務理事）

町田市バイオエネルギーセンターのごみピット。7日分のごみを溜めることができるピットだが、ほぼ満タンになってしまっている。

町田市の人口約43万人のごみを処理している、町田市唯一のごみ処理所が町田市バイオエネルギーセンターです。首都圏初の可燃ごみの中から微生物の働きによって発酵処理しバイオガスを発生させるバイオガス化施設　乾式高温メタン発酵が併設されています。

今回は、町田市役所　環境資源部循環型施設管理課　資源化推進係　新美明人さんと伊藤徳仁さんに協力頂き、編集委員の江尻氏とともに可燃ごみ、不燃ごみの流れやごみを出す際の注意点等をお伺いしました。

1日あたり258tのごみを処理

町田市では、可燃ごみと不燃ごみは有料の指定ごみ袋に入れ、決められた曜日に出します。

同施設は、可燃・不燃・粗大ごみを処理する東京ドーム約2個分の規模があります。可燃ごみは1日あたり約300t、収集車約200台分の量が運ばれてきます。町田市内のごみを1日で集めて処理をするのは量が多く大変なため、町田市内でも地域によってごみを出す曜日を変えて回収しています。

可燃ごみはまず収集車から運ばれごみピットに溜まります。ごみピットには7日分溜めることができ、それらのごみは約2tまで持ち上げられるごみクレーンで焼却炉に入れられます。なんとごみクレーンは24時間稼働していますが、日中は、搬入車があるため、安全面を考え「オペレーターが1基を運転・自動で1基を運転」の2基運転としていますが、搬入が終われば2基とも「自動運転」をしています（現在、ごみ処理が間に合わず、オペレーターの運転でカバーしています）。焼却炉に入れられたごみは、有害なガスが発生しないよう850度以上の温度で熱せられます。

燃やす際に発生する熱は回収され活用されています。排ガスは、ヤカンのように水を沸かして蒸気に変えています。さらにこの蒸気の力でタービンと呼ばれる大きな風車のような羽根を動かすことで電気を作っており、同施設の電気をまかなうほか、売電もしています。一方、焼却灰は日の出町にあるエコセメント化施設へ運ばれて、エコセメントに生まれ変わり、主にコンクリート製品に使われています。

不燃ごみは、危険なものが入っていないか確認するために、ごみ袋を

リチウムイオン電池が使われているものを探そう！

町田市バイオエネルギーセンターは、2022年１月に稼働開始したものの、翌月にリチウムイオン電池等が原因で大きな火災が発生。その後も不燃ごみ施設、バイオガス化施設での火災が３回発生してしまいました。このリチウムイオン電池は実は身近なものに潜んでいます。

スマートフォン、タブレット、ノートパソコン、スマートウォッチ、デジタルカメラ、コードレス電動工具、テレビのリモコン、ゲームコントローラー、電動自転車、ワイヤレスヘッドフォンやイヤフォン、Bluetooth スピーカー、補聴器、子どもの電動玩具、ドローン…。リチウムイオン電池を捨てるときは、必ず所定の回収方法にしたがって出しましょう。

破いてから回収します。町田市バイオエネルギーセンターに到着後、硬いプラスチックや小型家電、有害ごみを選別します。しかし、この作業は機械では難しく、なんと人の手で選別されているとのこと。そこから不燃ごみピットに入れられ、粉砕され、機械により鉄とアルミに選別し、再利用されます。残ったごみは可燃ごみピットへ入れられます。このようにごみの中から少しでも資源を見つける工夫がされています。

粗大ごみは、利用可能な品物が多くあります。それらは一般財団法人まちだエコライフ推進公社によって修理・掃除され、同施設内「リユースショップまちエコ」にて安価で販売されます。再利用不可の粗大ごみに関しては、不燃ごみピットに入れられ、不燃ごみ処理と同じ流れで処理されます。

正しいごみの捨て方を知ることが大切

ごみの捨て方に関する問い合わせは多いそうです。例えば、傘がごみ袋から出てしまう場合の対処法についてです。ちなみに町田市は指定ごみ袋からはみ出してしまっても、そのまま出して構わないとのこと。一方で、誤った捨て方をする方も多く、ＬＥＤライトは蛍光灯ではないのに蛍光灯の日に一緒に出されてしまうケースや竹は資源化できないのに剪定枝の日に一緒に出されるケースなどがあります。中には布団の中に包丁、不燃ごみの中に電池など隠してごみを出されたこともあり、「分別されていなくて困るのは、発火による操業停止、処理効率の低下、配置作業員の増加です。危険なごみを隠して出すことにより、火災や作業員の怪我、機器の故障による停止になることです」（新美さん）

市民に正しいごみの捨て方を伝えるために町田市では「資源とごみの出し方ガイド」や「資源とごみ収集のカレンダー」、「ごみ分別アプリ」などの情報発信に努めています。地域ごとの収集日や分別方法を確認することで、正しいルールでごみを出すことが事故の防止につながります。読者のみなさんがお住まいの地域にはどういった情報源があるのか、調べてみても良いかもしれません。

まだ使えるものは燃やさず資源化していきたい

町田市では地球環境を守るために「ごみになるものを作らない、燃

（左）町田市バイオエネルギーセンター。
一般の見学も可能な大きな施設だ。

（左下）「ごみに出されると困るもの」
乾電池・ボタン電池・充電池（二次電池も含む）
などの電池類やスプレー缶そして無惨に変形した
タブレットなどの現物が展示されていた。
ここにもリチウムイオン電池に関する注意喚起が。

やさない、埋め立てない」を市の基本理念としています。「ごみは焼却しているだけではなく、ごみから資源になるごみを選別し資源化しています。３R（リデュース・リユース・リサイクル）の中でも特にリデュース（ごみを出さない）を意識してごみを考えることが必要です。」（新美さん）私たちがごみを出さないようにするためには、どんな方法があるでしょうか。例えば生ごみはダンボールコンポストに入れることで、たい肥としても使用できます。次に意識してほしいことはリユース（繰り返し大切に使う）。エコバックの持参や使い捨ての製品を繰り返し使える製品へ変える、できるだけ紙で印刷せずデジタル化を進めることなどです。最後はリサイクル（分別して再び資源にする）です。年々多様な製品が製造されている中で、作るとき、選ぶときにリサイクルできるものか確認することが大事だと新美さんはおっしゃっていました。このように一人一人の小さな取り組みがごみ削減へとつながっていきます。

町田市バイオエネルギーセンターは、町田市外にお住まいの方でも見学が可能です。実際に施設を訪問し、手選別の大変さやごみの多さを目の当たりにすることで、ごみ問題の重要性をより深く実感することができます。ぜひ一度足を運んでみてはいかがでしょうか。

不燃ごみの説明をする伊藤さん

町田市バイオエネルギーセンター

町田市バイオエネルギーセンターは、2022年1月に稼働開始。生ごみのバイオガス化施設とごみ焼却施設を一体的に整備した首都圏初の施設。
ごみ処理に関する行政機関が入る「管理棟」は町田市が、ごみ処理を行う「熱回収施設」、「不燃・粗大ごみ処理施設」、「バイオガス化施設」は町田ハイトラスト株式会社が管理している。

寄稿

ごみの分別から学ぶこと

江尻京子（東京・多摩リサイクル市民連邦／本誌編集委員）

ごみは行動や活動の結果として生ずるもので、わざわざ作り出すものではない。ごみ問題はすべての人が逃げることのできない社会問題の一つである。

私がごみ問題に関わるようになったのは、1990年から。当時住んでいた自治体の公民館が主催した「ごみがハンランする時」という講座にたまたま参加したことだった。体力的な理由で仕事をやめて数年経過し、専業主婦として子ども中心の生活を送っていた時のことだ。そのころの私は、目の前にいる子どもたちの日々の成長がなによりも楽しく、おもしろく、夢中で子育てをしていた。関心はわが子だけで、ごみのゆくえを知る余裕も興味もなかった。ところが、ふとしたきっかけでごみ問題の大きさを知ることになり、以来、ゴミニスト（市民活動も仕事も趣味も「ごみ」の人）という肩書を作り、ごみ問題ジャーナリストとして現在に至る。

ごみ出しルール

引っ越しをして、転入手続きをした時、窓口で渡される資料の中にごみの分別表や分別カレンダー、分別読本などが入っている経験をした人は多いと思う。新しく住む地域のごみ出しの方法をマスターすることはご近所トラブルを避け、居住地を知る一歩と言っても過言ではないだろう。それは遠く九州や北海道から都内に転入した場合に限らず、都内の別の区市町村への転居の場合にも言えることであり、ついつい前に住んでいた地域のごみ出しルールのまま出してしまったという経験をした人もいると思う。

実は、日本の法律である「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」の第六条に「市町村は、当該市町村の区域内の一般廃棄物の処理に関する計画を定めなければならない」とある。簡単に言うと、ごみ出しのルールを決めるのは市町村であるという

（上）過酷な「手選別」の現場。ゴーグルと防じんマスクを着用し、混じってしまった異物を取り除いていく。（写真提供：多摩ニュータウン環境組合）

（次ページ）多摩市ペットボトルの分別。合言葉は「はがして とって すすいで ポン！」。ペットボトルの水平リサイクル（使用済みペットボトルから新しいペットボトルをつくること）を推進するために、分別ルールを強化した（次ページ本文参照）。実施前（写真左）と後（右）のペットボトルを比べると、徹底された分別のようすがよくわかる。

こと。山間部、海辺、市街地などの環境、人口規模、清掃工場や最終処分場といった施設の事情など、人々が暮らす地域は多様であり、特徴がある。だから、その地域のことを一番よく知っている自治体がルールを決めることがそこに住む人にとって一番よいルールとなるというわけ。この法律により、引っ越すとごみ出しルールや分別ルールが変わるという現象が起きるのである。

ごみの分別

さて、ここでなぜ分別しなくてはならないのかということを考えてみたい。

自治体の廃棄物処理計画や行動計画を策定する際によく課題になるのは、分別ができない人たちにいかに分別をしてもらうかというテーマである。しかし、なぜ分別がうまくできないのか、なぜルールを守ることができないのかをていねいにヒアリングしてみると、分別方法がよく伝わっていないことがわかる。

ごみの日を間違えなければ分別ができていなくても回収してもらえるという経験を重ねると、知ることの必要性を感じることはなく、アンテナを高くする必要もない。転入の時に渡されるごみについてのお知らせも目を通すだけ。ごみカレンダーやごみのお知らせもペーパーレスの時代でもあり、必要性を感じなければそのままごみ箱に直行だ。

しかし、違反シールを貼られたり、収集してもらえないという事態が起きるとごみの分別に関心をもたないわけにはいかなくなってくる。きっかけはいろいろだろうが、分別ルールが気になった時、「えっそうだったのか」と気づくことも多い。知る必要がなかったので知ろうとしない。だから正しい分別ができないのである。

こうしたごみの分別がうまくできない層は、若い単身者に多いと言われるが、そうとは言えない実態がある。高齢者のごみ出しも問題になっているのだ。特に長く住んでいる「地元」のごみ出しルールが変更になった時には、長年培った分別のわざがある日を境に突然、発揮できなくなってしまう。そこで文字を大きくするなどした高齢者向けのパンフレットを作ったり、福祉セクションと連携して正しい分別方法を伝えるなど行政の担当者は努力している。

日野市では、高齢だけではなく、障害のある方で、ごみ出しが困難な世帯に、指定日外排出用ごみ・資源収納容器（ハンディキャップボックス）とハンディキャップシールを提供している。「間違って出してしまうことがあっても回収してくださいね」というメッセージだ。頭ごなしにダメダメではなく、情報を受けとめたら、なかなか受信できない人たちに知らせ、地域の中で支え合っていくことは大切である。事情があって分別がうまくできない人たちもいる。許し合える関係性は見習いたい。

一方、多摩市では、２０２３年12月から、ペットボトルの徹底した分別を実施するために、回収箱にルール違反のものが入っていたらその箱のものはすべて回収しないという厳しいルールを決めた。始まるまでは、多分失敗するだろうと言う人が多かったが、実際スタートしてみると驚くほどきれいなペットボトルを回収できるようになったという。知らせる努力を惜しまなかった職員の方々には敬意を表するが、それを受け止めることができ実行に移した市民の行動は、知ることによって行動が変わるという事例の一つだと言える。

分別をしなかったら…

では、分別されないごみはどうな

●写真を撮って分別を知る「調布ごみナビ」

資源として回収されず燃やされてしまっている古紙類、不適切な分別によって発生する火災。こうしたことは、ごみとして扱われる物が細分化されていることや、外国人居住者の増加、分別方法の検索が手間であることに起因していると分析。その解決策として電気通信大学、Borzoi AI株式会社、調布市による産学官連携で「調布ごみナビ」が開発・導入されたそうだ。分別がわからないものを品名で検索するだけではなく、画像高性能AIを用いた画像マッチング検索により、写真を送るだけで分別方法を案内してくれる。分別することが楽しくなってしまう。

るのか。

清掃工場に到着した可燃ごみはそのままごみピットに投入され、焼却される。したがって、本来入れてはいけないものが混ざっていてもそれを取り除くことは難しい。過去にあった事例としてはリチウムイオン電池が混入していたためにピット内で火災が発生、原因は特定できないが水銀濃度が高くなったという清掃工場もあった。いかに分別ルールを守ることが大事かということだ。

多くの清掃工場には、手選別ラインというプラントがある。運ばれてきた不燃ごみの袋を破いてベルトコンベアの上に中身を出し、目視によって資源になるもの、危険なもの、対象ではないものなどをピックアップしていく。

学習会や講演会などでこの話をすると「もう一度分けるんだったら家で分別する必要はないのではないか」という人がいる。しかし、その発言をした人に現場を見てもらうとほとんどの人が発言を撤回する。なぜならば、あまりにものすさまじさに閉口するからである。

本来、不燃ごみの中には「生ごみや食品が付着したまま激しく汚れているものは入れない」というルールになっている。刃物や割れたガラスコップなどは包んで中身が何であるかを明記して出してほしいと案内している自治体は多い。しかし、現実はコンベア上に包丁や注射器が流れていたり、生ごみや食品が付着したトレイが流れていたりというとんでもない事態となっている。担当する職員は頭部を保護する帽子、厚い手袋、ゴーグル、防じんマスクを装着しコンベアの前で作業をしている。それでも、時には手袋を抜けて刃物が刺さることもあるという。

不燃ごみは可燃ごみより集める日数が少ない。量が少ないこともあるが家庭内に保管していても異臭を放つことがないからだ。ところが手選別ラインでは強烈な匂いがする。可燃ごみの日に出し忘れた生ごみを入れる人がいるのか、食べ物が付着していても本体が不燃ごみだからという思い込みがあるのか。すべての人がルールを守って出した不燃ごみならば強烈な匂いがしたり、刃物がそのまま流れてくることはない。間違って出してしまうことは誰にもあることだが知っていて行うというのはまったく情けないことである。

また、ほとんどの自治体では、ペットボトルはラベルとキャップを外して出すことになっている。ペットボトルのリサイクルを進めるための必

●触ってわかるごみ袋

指定ごみ袋を導入している市町村は年々増えているが、
可燃、不燃、資源などの分別にあわせて色分けしているところが多い。
しかし、視覚に障害のある人は区別することが難しい。
そこで、エンボス加工をしたり、ペロの部分に穴をあけるなどし、
手の感触でわかるごみ袋を使っている自治体もある。

（写真出典：立川市）

須条件でもある。しかし、飲料が入ったまま出されているもの、キャップが付いたままのものもある。資源化センターではそのキャップを一つひとつ外す作業をする。夏の猛暑の時期にはペットボトルの量が増え、比例してキャップを外していないボトルが増える。フタ取り機と呼んでいるキャップを取る機械はあるが、間に合わず一日中キャップを取っていたために腱鞘炎になったという話も聞く。夏場だけではなく、機械が故障してしまうと人の手によらなければ次々と届くペットボトルをさばくことはできない。また、キャップを外した時に中身が飛び出すこともあり、服だけではなく顔にも飛んでくることがあるようだ。なぜキャップを外すという簡単なことができないのか。空のペットボトルにキャップは不要である。

　人は一人では生きていけないし、生活も成り立たない。ごみはすべてのシーンから発生するもので決して特殊なものではない。自分の暮らしから発生したごみに対しては最後まで責任を持つべきである。そうはいっても、私たちはごみを分別して排出するところまでは自ら行うことができるが、その先は誰かにお願いしなくてはならない。だからこそ、分別の徹底は必須なのである。

　仕事なんだから、届いたごみはなんでも対応しろというのはあまりにも傲慢だ。危険を感じながら、嫌悪感を持ちながらの作業は誰もが嫌である。しかし、それを強いているとすれば一種の人権問題だと思う。担当する人の人権を脅かすようなごみ出しをしてはいけない。

さいごに

　時々、小学生にごみの話をすることがある。

　ものを作るためにどんどん新しい資源を使ってしまえば、いずれ地球上の資源はなくなってしまう。逆に、使い終わったものや作る時に使われなかったものをぽいぽい捨ててしまえばごみは増えるだけ。特に日本は資源が少ない国なので、使えるものは繰り返し使うことができるように分別する。それでもすべてのものが使えるわけではなく、放っておくと不衛生になるものもあるので清掃工場で燃やす。燃やす時に発生した熱を利用して発電したりして可能な限りごみを活用していこうという考え方で社会が動いていて、それぞれの現場では多くの人たちが働き、私たちのごみを処理してくれている。ということを平易な言葉で説明する。

　ごみが自分の前からなくなってもそれで終わりではないことに気が付いた子どもたちは、どんなおとなになるのだろうか。いま、おとなである私たちは彼らの反面教師となってはならない。

　あなたの地域のごみ出しルール、ぜひおさらいしてみてください!!

江尻京子（えじり・きょうこ）
多摩ニュータウン環境組合リサイクルセンター（愛称エコにこセンター）センター長（運営：NPO法人東京・多摩リサイクル市民連邦）。東京ボランティア・市民活動センター運営副委員長、本誌編集委員長。高等学校教員を経て、1990年からごみ問題にかかわり、ごみ減量に関する啓発施設として、粗大ごみのリユース販売や講座等さまざまな事業を実施。ごみ問題ジャーナリスト、環境カウンセラーの肩書で啓発にも取り組む。

誰しもごみの捨て方には悩んだことがあるでしょう。ごみカレンダーの説明を読んでみても、細かい点がいまひとつわからない。誰に聞いたらいいのかもよくわからない。いろいろな「?」が頭にひっかかったまま、流されるようにして日々のごみ出しをしてきてしまった人もいるのではないでしょうか。「とりあえずこっちでいいか」などとつぶやきながら。

今回、初めての「ごみ特集」を編むにあたって、編集部なりに勉強してまとめてみました。取材でお聞きしたことも盛り込んでいます。

ご存知のように「ごみ出しのルール」は自治体ごとにバラバラで、ペットボトルひとつとっても、自治体によって「潰して出してください」だったり、「潰さないで出して」だったりといった具合。なので簡単にまとめることもできないのですが、ルールの背後にあるユニバーサルな考え方や、押さえておくべき重要ポイントについて、ここでは書き出してみたつもりです。

■ごみを減らすために：「使い終わり」をイメージしながら買う（買わない）

- その商品、ほんとうに**長くつきあっていけそう？** 自分の過去の買い物もふりかえってみよう。買ったはいいけどすぐに使わなくなってしまった、なんて経験も思い出すかも。また、たとえば5年後や10年後の自分の暮らしぶりを想像してみよう。
- 自分が使わなくなった後に「**リユース**」できそう？ 身の回りの人に譲ったり、それが難しければ売買サイトで売ったり、中古ショップに持っていったり。
- リユースが難しければ、できれば**資源ごみ**として出したいものだ。資源ごみの種類ごとに分解できて、きれいにごみとして出せたりするかどうか。そのへんも気にしてみよう。
- ごく大雑把なイメージでいいので、その商品から**発生するCO2の量**（いわゆるカーボンフットプリント）もちょっと想像してみよう。原材料の調達、製造や組み立て、輸送等の各過程、また廃棄処理からもCO2は発生する。実はリサイクル処理の過程でもCO2はしっかり発生している。
- 地元の清掃工場（クリーンセンター等）を一度**見学してみる**のもいいかもしれない。そびえ立つごみの山を見上げ、一日に処理されるごみの量に圧倒されて、「**やっぱりこんな暮らし方はおかしい！**」と感じる人も少なくないという。体感することはとても大事！

■日本のごみ事情

●高い焼却率と、乏しい処分場用地

日本のごみ処理の最大の特徴は「**焼却処理**」の比率が諸外国とくらべて非常に高いこと。プラごみとして出されたごみも、その2/3以上が実は焼却されている。そもそも、「燃える」「燃えない」という分け方自体が日本独特のものであるらしい。

焼却後の灰を埋め立てる処分場も逼迫している。日本では事前に焼却するなどして1/10以下にまで減らしてから埋め立てることができているが、それでも**最終処分場はあと25年くらいで満杯になってしまう**と言われている。新しい処分場を開設するのも、段取りを踏んで地域住民の同意も得なくてはならないため、非常にハードルが高いのだという。もし捨てる場所がなくなってしまったら、私たちはどうするのだろうか。

●使いすぎ？ プラ容器包装

一人あたりの「プラスチック容器包装」廃棄量が世界一多いのは米国だが、日本は年間32kgで、なんと**世界第2位**にランクインしてしまっている。マイバッグもだいぶ普及してきたようなのになぜだろう？ でもたしかに、買い物をするといまだに**過剰包装**を感じることがあるし、スーパーで野菜や肉を買うとき「備えつけの**ビニール袋にとりあえず入れる**」みたいな癖がついてしまっている人も多い気がする。日本人の「清潔好き」ゆえかもしれないが、考え方を変えることでもう少し減らすことができないだろうか。

■“要注意なごみ”の話

●危険なごみNo.1は……スマホにも欠かせないアレ

スマホやパソコンをはじめ、最近の充電式電気製品に使われているバッテリーのほとんどは「**リチウムイオン電池**（LIB）」。LIBが原因の火災がごみ処理ライン等で急増しており、設備の復旧に数十億円・数年もかかるケースも出るなど、大きな問題となっている。

LIBは蓄電池として非常に優秀で、広く普及したが、劣化すると少しの圧力で簡単に発火してしまう。絶対にしてはいけないのはLIBを「他のごみに混ぜて出す」ことだ。「電池だけ」を（電池を取り外せない製品についてはその製品を）わかりやすい形で出すのが基本だが、いまいちど地元の自治体の指示を確認してみよう。

●「紙リサイクルマーク」の落とし穴

素材ごとのリサイクルを推進する目的で付けられているリサイクルマークだが、「紙」のリサイクルマークには注意が必要だ。

法令上、「容器包装」（商品を入れたもの・包んだもの）のうち、材料として紙を50%以上使用しているものは「紙製容器包装」とされ、このマークをつけることになっている。つまりこのマークは「**紙としてリサイクルできます」という意味ではない**のだ。マークがついているものの中でも、「アルミ加工されたカップ麺のふた」「防水加工されているヨーグルトの容器」など、古紙に出してはいけないものが存在している。そして、これらは**燃えるごみに出すのが正しい**というのが結論。（※ただし全国には「紙製容器包装」として収集をしている市町村もある）

これを書いている私自身、長いあいだ何の疑いもなく「紙マークがついているものは古紙に」と信じて、そうしてきてしまった。こんなふうに紛らわしいのはなんとかしてほしいと思うが、とりあえず、「**紙マークがついていても古紙として出せないものもある**」ということ。忘れないようにしたいと思う。

【参考文献など】
『ごみ減 Recipe Book』2024年
TAMA-3Rフォーラム実行委員会

『やっぱり、このゴミは収集できません』
2020年 マシンガンズ滝沢秀一
/白夜書房 ISBN978-4-86494-282-9

ほか多数のウェブサイトを参考にしました。
リンク集は右QRコードから。

■収集する人の目線で。

ごみを収集する人になったつもりで想像力をはたらかせてみよう。もしかしたら、あなたのゴミ出しにも、もう少し改善の余地があったりするかも。

●恐怖！「破裂するごみ」

収集車にごみを投入する際に、ごみ圧縮の過程で袋が破裂し、中身が飛散してしまうことがよくあるという。

「落ち葉」や「ビーズクッションの中身」といったものが路上に飛び散ると**清掃に時間を取られ**、業務に大きな支障が出てしまう。では中身が飛び散らないようにするにはどうしたらいいか。まず「ぎゅうぎゅうに詰めた袋は容易に破裂する」そうなので、**ごみ袋には余裕を残し、さらにしっかり空気を抜いて**出すのが正解。とくに「衛生上問題のあるもの」や「大量の細かいもの」を出すときにはきちんと心がけたい。量が多い場合には、何度かに分けて出すような工夫も考えてみよう。

また液体系のごみも大問題で、破裂して、腐敗した**「汁」のようなもの**が体にかかると、風呂に入っても二オイがとれない、といった悲惨な話もあるようだ。生ごみは水気をよく切って、排水口に流せない液体はいらない紙や布にしみ込ませてから、出すようにしよう。

●水分を減らして、環境にもやさしく

毎日何百ものごみ袋を扱う収集員さんにとって、**重すぎるごみ袋は大変な負担**になるもの。生ごみの水分を減らすことはその意味でも重要だ。しっかり水気を切れば、それだけでごみ袋はだいぶ軽くなるはず。また、水分の多いごみは**それだけ燃焼にも時間がかかり、無駄にCO2を出してしまう**、ということも忘れてはいけない。最大限「乾いたごみ」を出すことを日々心がけたい。

●「ひとことメモ」で注意喚起

燃えるごみの袋に焼き鳥の串を入れたり、燃えないごみにガラスの破片や刃物を入れて出した経験が、あなたにもないだろうか？ 収集する人が袋をつかんだときに、こうしたもので怪我をすることがあるそうだ。

このような場合は、**「串に注意」「ガラスあり」「包丁が入っています」**等の貼り紙をしておくととても助かるという。あわせて、布などで簡単に**くるんでからゴミ袋に入れる**ことも忘れないようにしたい。これもちょっとした想像力というお話。

1年間の相談を振り返って（2024年度）

東京ボランティア・市民活動センター（TVAC）には、市民（個人）、ボランティアグループ、市民活動団体、NPO法人、社会福祉施設、企業、行政機関、マスコミなど、様々な方から多数のご相談・お問い合わせが寄せられています。

2024年度は、1万1057件の相談が寄せられました。

■相談方法

相談方法は、電話・メール・来所・オンライン等があります。2024年度は、電話による相談が最も多く、全体の58・9％でした（図1）。

次いで多いのは、全体の4分の1を占めた来所による相談（24・3％）です。来所相談は、コロナ禍に突入した2020年度以降、20％以下に留まっていましたが、今回は前年度の16・0％から大幅な増加です。

相談方法として3番目に多かったのは、メールによる相談（12・1％）です。メール相談は、限られた情報をもとに対応するため、来所相談後のフォローや、簡易な内容に関するものが中心となっています。ここ数年、電話に次いで2番目に多い相談方法でしたが、2024年度は、3番目、来所相談の半分となりました。

オンライン等による相談は519件、全体の4・7％で、統計を開始した2021年度以降、増加し続けています。TVACでは、相談者との関係づくり・パートナーシップのために、来所による直接の出会いを大切にしています。ウェブ会議システム等が普及した現在も、特に相談の初回においてはオンラインの積極的な活用はしておりません。しかし、継続相談や、移動等に関わる事情を抱える方からの相談を中心に、オンラインの活用が広がってきていると感じます。なお、年々、来所・オンライン・メール等、複数の相談方法を組み合わせた継続的な相談が増加しています。

■相談者の属性

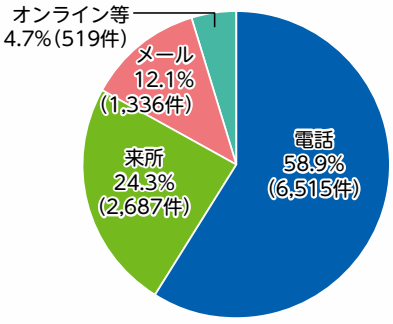
◇NPOからの相談

相談者のうち最も多いのがNPO（民間非営利組織）です（図2）。全体の45・5％、5032件でした。ここでの「NPO」には、NPO法人だけでなく、他の非営利法人の他、ボランティアグループやセルフヘルプ・グループを含む、任意団体として活動する市民活動団体等も含んでいます。

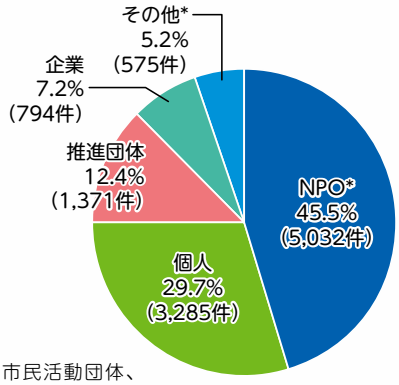
相談内容は、活動のはじめ方、任意団体の立ち上げ、会則について、法人格の選択、法人設立、会計処理・決算・税務関係、定款や役員の変更・認定取得などの他、事業の企画、広報、ボランティアマネジメント、資金調達、法務、労務、トラブルに関する相談など、幅広く寄せられています（NPOからの相談例参照）。

2024年度も、法人格の有無を問わず解散に関する相談が多く、1か月に5団体から寄せられることもありました。解散理由としては、運営資金の問題、メンバーの高齢化などを多く耳にしましたが、団体内外でのトラブル、特定のメンバーへの負担増などを解散の理由とする団体もありました。法人の場合は特に、マンパワーの課題が総会運営や経理など、不可欠な事務の滞りに直結してしまいます。そのため、活動への賛同者が多くいるにも関わらず、解散の検討を余儀なくされた法人もありました。また、世代交代の相談から始まり、最終的に解散という選択にたどり着く団体も少なくありませんでした。

【図1】相談方法内訳



【図2】相談者の内訳



＊NPO…
ボランティアグループ、市民活動団体、NPO法人など非営利の市民団体

＊その他…
福祉施設、行政機関、学校、マスコミなど

NPO（民間非営利組織）からの相談例

・高校の友人たちとボランティア団体を立ち上げたい。いずれ法人化したい。
・活動実績がないと、助成金の申請ができないと聞いた。どうすればいいか。
・必要としている人たちに団体の情報を届けたい。効果的な広報の方法を知りたい。
・助成金の振込先として、団体名義の口座が必要なのだが、口座が開設できない。
・メンバーの居住地がバラバラ。公共施設が借りられず、活動場所に困っている。
・スタッフが高齢化している。主体的な若者に参画してもらいたい。
・事務局が１人で数10万円の立て替えをしているが、精算のめどが立たない。
・会員間でトラブルがある。会則に除名に関する記載がなく、対応方法がわからない。
・任意団体を解散したい。会則などがないのだが、手続きはどうすればいいか。
・グループの連絡会。会員団体の「要望先」になってしまい、連絡会が機能しない。

ここ数年、ＴＶＡＣに寄せられるＮＰＯからの相談は減少傾向にあります。コロナ禍以前には１万件を超えることもあったＮＰＯからの相談は、最近では、その５割程度となっています。その原因は定かではありませんが、様々な団体・活動者との情報交換を通して、その背景には「解散の増加」のみならず、市民活動全体における変化の影響もあるのではないかと、推察しています。

特にコロナ禍以降、活動の立ち上げ時にはインターネットで必要な情報を集め、一緒に活動する仲間とＳＮＳで出会い、運営メンバーは全国からネットを通して参加し、「地域」ではなく「テーマ」でつながっているということを耳にする機会が顕著に増えました。

また、活動面でもこれまでにない新しい取り組みが次々と生まれていますが、新しいが故に、それらの試みを活動者自らが「市民活動である」と認識することが少なくなってきているのではないかと感じます。

加えて、横のつながりをもつ機会が少なくなり、既存の団体や活動からノウハウや支援機関・社会資源の情報を得にくい状況が生じている可能性もあります。

そういった背景から、ボランティア・市民活動センター等への「相談」が遠くなっている面もあるのでしょうか。ＴＶＡＣとしては、市民活動の推進機関として、現在の「活動」のあり様に一層アンテナを張り、その変化や多様化に対応していくための方策を検討する必要性を感じています。

◇推進団体からの相談

ボランティア・市民活動センター等の「推進団体」からの相談は12・4％でした。

推進団体からの相談は、地域住民からの相談だけでなく、地域の団体や活動を立ち上げたい人からの相談への対応に関わるものが多く寄せられました（推進団体からの相談例参照）。

その幅広い相談内容からは、活動者の身近な相談先としての期待と、相談対応を通して活動や社会課題への理解を深め、団体や活動者とのパートナーシップ構築を目指す中間支援組織としてのボランティアセンターの姿が浮かび上がります。

一方で、ボランティア募集に留まらない団体からの相談は複雑化・高度化しており、地域の推進団体に求められる対応が拡大しています。

「中間支援組織とは何か」。２０２４年度に、多く耳にした問いかけです。社会や活動のあり方の変化のみならず、重層的支援体制整備事業等の取り組みが徐々に広がる中で、ボランティア・市民活動センター等の中間支援組織は、自らのあり方や、あるべき姿を見つめ直し再考する、節目の時を迎えているように感じます。

これに対するひとつの取り組みとして、２０２４年度はしぶやボランティアセンターとの共催で、中間支援組織の職員向け「団体支援・ＮＰＯ相談」に関する連続講座を実施しました。

◇個人からの相談・３０００件超

個人からの相談は全体の29・7％でした。前年度の18％を大きく超える割合となりました。最も多いのは「話がしたい」、「話を聞いてほしい」といったもので、コロナ禍以前から続く傾向です。なかには解決することだけを望むのではなく、「専門職に私が困っていることを、ちゃんとわかってほしい」「あなたはがんばっている、と言ってほしい」と吐露される方もいました。

生活に関わる相談としては、住

推進団体からの相談例

・地域の団体が監事を探している。どういう人を探せば良いのだろうか。
・グループの代表が後継を探しているが、若い世代の参加がなく、引き継げないでいる。
・当事者団体が、Zoomの年間利用料を対象とした助成金を探している。
・マンションが多い地域の自治体から、防災訓練の他地域の事例を聞かれている。
・地域の団体が、同一事業に８つの助成金を申請しようとしているが、大丈夫か。
・留学生が学習支援をするためにNPOをつくりたいと（相談に）来ている。どう対応したらよいか。
・団体から「会議の欠席者が多い」と相談があるのだが、どう助言したらいいか。
・自助グループに参加したい学生から相談がある。紹介できる団体はあるか。

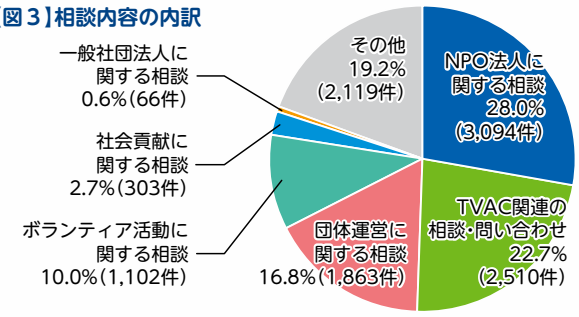
まいや食事に関するものが多く寄せられました。「高齢者に住むところを紹介してくれるＮＰＯはあるか」「大家と揉めて、アパートを追い出されそう」「今から歩いて行ける炊き出しの情報が知りたい」などの相談が、年間を通じて寄せられています。

その他にも、「自分が行けるピアグループを探している」「自助グループを立ち上げたい」といったセルフヘルプ・グループに関する相談や、「麻痺があり、車いすを使用しているので、家でできるボランティア活動を探している」「高齢のためボランティア活動を辞めたいが、人とのつながりがなくなるのではと不安」「ボランティア先の人間関係がうまくいかない」といったボランティアに関わる相談も多く寄せられました。

■相談内容の内訳

ＴＶＡＣに寄せられる相談の内容で最も多いのが「ＮＰＯ法人に関する相談」（28・0％）でした（図3）。次いで「ＴＶＡＣ関連の相談・問い合わせ」（22・7％）で、ここには当センター主催の助成金「ゆめ応援ファンド」や、会議室利用やウェブへの情報掲載に関するものも含まれます。

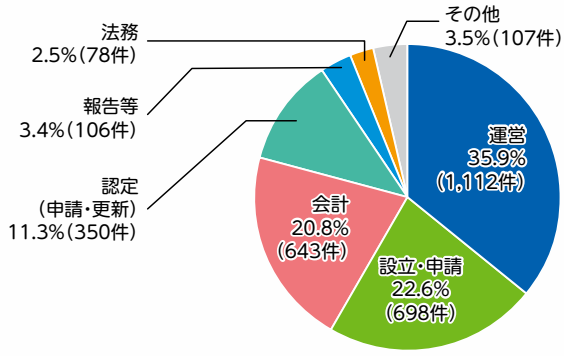
【図３】相談内容の内訳



◇ＮＰＯ法人に関する相談が最多

「ＮＰＯ法人に関する相談」は法人運営に関する内容に限定したものです。３０９４件のうち、「運営」が最も多く、35・9％です（図4）。「運営」には、総会や理事会、定款変更などが含まれます。一般的な手続きだけでなく、長年積み重なった課題の蓄積で問題が複雑になっている法人も多く見かけました。なかには、認証手続きや登記変更の漏れなどが発生して、内容の異なる定款が３種類出てきた法人や、過去の決算書において毎年数字がつながっていないことが判明した法人もありました（ＮＰＯ法人からの相談例参照）。

【図４】NPO法人に関する相談内訳



また、特定の専門技能をもった方たちの集まりでは、実質、市民参画を想定していない法人化も目立ち、ギルド組織的な意味合いを感じました。

「会計に関する相談」が20・8％です。企業からのイベント協賛金の扱いや電子マネーでの寄付受入など、ＮＰＯ法人ならではのものが寄せられた一方、「うちに固定資産はあるか」「引っ越し時に通帳が見つかった」など、組織の状況を反映しているかのような相談も多くありました。

また、認定（申請・更新）に関

NPO法人からの相談例	・代表が著名人なので、運営が混乱しないように社員の資格に制限をつけたい。 ・設立以来、役員の変更登記をしていない。代表理事が変わるが、どうしたらいいか。 ・理事と監事の任期、理事と代表就任の日がずれて手続きが煩雑。どうにかできるか。 ・数年、活動できていなかった法人を再開したい。役員や正会員の状況がわからない。 ・所轄庁のウェブにある定款と、事務局の手元にある定款が違うのだが、どういうことか。 ・使い切れずに返還することになった助成金の会計処理は、どのようにすればいいか。 ・総会議事録の署名を電子署名にすることは可能か。 ・数年にわたり、赤字決算が続いているが認定を申請することはできるか。 ・役員が経営する会社と事業連携したいのだが、NPO法人として留意すべき点はあるか。

する相談は11・3%、350件で、増加の一途を辿っています。認定相談は、要件の確認にとどまらず、定款の見直しや組織体制など、法人運営全体に関わる点検に波及することが多く、相談も数か月・年単位で継続になることが少なくありません。認定取得・更新に向けては、日常的に要件等を意識した運営が重要となります。

2024年11月、いわゆる「フリーランス新法」[*1]が施行されました。NPO法ができてから25年以上経ち、NPO法人が社会に欠かせない存在となっていると同時に、様々な法制度と無関係ではなくなっています。運営面でも信頼される法人であることが、ますます重要となります。

＊　＊　＊

TVACでは、寄せられる相談に対して、多様な選択肢をもって団体や活動の「今後」を見つけ出す一助となるような伴走を心掛けています。

さらに、弁護士や公認会計士・税理士、特定社会保険労務士等の専門家と連携し、必要に応じて各種専門相談につなぐ対応をしています。また、外部研修への積極的参加やスーパービジョンの実施、定期的な事例勉強会の開催、他機関との情報交換などを通して相談員のスキルアップに取り組んでいます。

今後も相談内容の傾向から団体の抱える課題や市民のニーズを把握し、市民活動を取り巻く状況の変化を読み取りながら、センター事業に反映させていきます。

（相談担当専門員　森玲子）

東京ボランティア・市民活動センターの相談

東京ボランティア・市民活動センターでは、NPO、ボランティアグループ、当事者団体、セルフヘルプ・グループからの設立・運営などのご相談をお受けしています。まずはお電話にてご予約ください。

電話：03-3235-1171（予約優先）

講座・ガイダンスのご案内

○NPO法人の設立や要件、法人格の選択について知りたい方へ
「NPO法人設立ガイダンス」　6月・12月開催

○認定NPO法人を目指したいNPO法人の方へ
「認定NPO法人ガイダンス」　7月・1月開催

○NPO法人の総会運営や会計など運営の実務を学びたいNPO法人の方へ
「NPO法人運営入門講座」　9～10月開催／「NPO法人運営実務講座」　隔年11月開催

＊1　フリーランス・事業者間取引適正化等法
特定受託事業者に係る取引の適正化等に関する法律。「フリーランス」保護のために、取引の適正化等を目的としている。例えば、NPO法人が個人に「業務委託」をする際に、この法律の適用範囲かどうかを確認することが重要となる。

せかいをみる

標準語を使うことが当たり前になった今、そのかげで元々の「ことば」、方言が失われつつあります。それは台湾においても同様のようです。「ことば」の標準化は台湾社会に何をもたらしているのでしょうか。そして「ことば」を継承する意味とは。
今号は台湾語の研究者、吉田真悟さんに寄稿していただきました。

寄稿

台湾の言語運動を通して考える日本の「ことば」

吉田　真悟
（一橋大学大学院言語社会研究科 講師）

●台湾の歴史と言語

「言語運動」と聞くとどんな事が思い浮かぶでしょうか。日本ではあまり耳慣れないかもしれませんが、台湾ではしばしば聞かれる言葉です。台湾で言語運動が盛んになったのは民主化が進んだ1980年代以降ですが、それを理解するにはまず、台湾の歴史と言語状況を知る必要があります。

台湾は漢民族の国というイメージが強いと思いますが、元々住んでいた現在「原住民」と呼ばれる人々は、マレー語やハワイ語と同系統の言語を話していました。後からやって来た漢族は対岸の福建省から来た人が最も多く、次に多いのが主に広東省から来た客家（はっか）と呼ばれる人々です。両者が話すことばは現在それぞれ「台湾語」、「客家語」と呼ばれ、どちらも漢語に属しますが、互いに意思疎通が難しい程の隔たりがあります。

これが近代以前の言語状況で、その時点で既に様々な言語が話されていたわけです。

しかし、近代になり台湾で初めて「国語」とされたのはそのどれでもない、日本語でした。日清戦争の結果、台湾は日本に割譲され、植民統治が始まったからです。学校で日本語を教えられ、公の場では日本語を使うことを強要される状況は、日本が第二次大戦に敗れたことで終わりを迎えますが、戦後は台湾を接収した中華民国によって、今度は北京のことばを基にした標準中国語が国語として教育・普及されることになりました。

つまり、台湾では近代以降ずっと外来の言語が国語とされ、人々が元々母語としていた言語は家庭等の私的な場でのみ話されるという状況だったのです。そのような状況下では、国語を話すことが出世や経済的成功につながるため、人々は徐々に母語を捨てて国語に乗り換え、結果として土着の言語は継承の危機に瀕するようになります。その流れを食い止めて元々の母語を復興しようと起こったのが、台湾の言語運動なのです。

●さまざまな言語運動

言語運動の形として、まず市民の自助努力によるものが挙げられます。例えば話者が最も多い台湾語で見られるのは、台湾語で子育てをする親子の集まりです。家庭で子ど

● 吉田真悟さんのプロフィール ●

専門は社会言語学。子どもの頃、父の故郷青森県八戸市に帰省したときに親戚が話す方言にふれる。標準語として英語だけを学ばされることに違和感を持ち、高校時代に中国語を学びはじめ、東京外国語大学で中国語を専攻、台湾に留学した経験をもつ。卒業後、赴任先のシンガポールであらためて台湾語〈福建語〉に親しむ機会を経て、廃れていく少数言語「台湾語」の研究の道にすすみ現在に至る。

① 台湾語キャンプ「大人の部」の様子

③ 右側がデモ行進の際の写真。国家人権博物館の特設展示より

② 台湾語キャンプ「子どもの部」の様子

もに何語で話し掛けるかは両親の意志で決めることができますが、外の世界に一歩踏み出した途端、子どもは幼稚園や学校で中国語に囲まれることになります。そうした中で子どもが家の外でも台湾語を話す環境を作るため、志を同じくする家庭が集まって交流する団体が作られています。

またもっと広い年齢層を対象とした活動として、「台湾語キャンプ」があります（写真①②）。これは言わば台湾語を使う合宿のようなもので、多くの人が数日間寝食を共にし、なるべく台湾語を使って生活しようという活動です。大人が台湾語に関する座談会を開催したりする間、子どもには台湾語や台湾のことを教える授業が行われたりします。筆者が参加した時の印象では、子どもたちも大人の話す台湾語はほぼ聴き取れているようでしたが、子ども同士での会話を聞いていると、やはり中国語が多く使われていました。

しかし、言語の衰退が先に述べたような社会的背景の下で起こっていることを考えると、こうした自助努力だけでそれを食い止めることは困難です。そのため言語運動は、政府に法制度や社会の仕組みの変革を求めるという形をとることもあります。象徴的なのが、1988年に客家人が行ったデモ行進です。そこで人々は「還我母語」（母語を返せ）をスローガンに掲げ、客家語の使用拡大を求めました（写真③）。こうした運動に応じる形で政府も土着言語の振興策を打ち出し、現在では台湾語、客家語、原住民諸語に専門のテレビチャンネルが開設され、小中高の学校教育でもこれらの言語を教えるようになる等の変化が生まれています。

●日本の「ことば」の現在地

こうした言語運動は、日本には無縁なものと感じるでしょうか。日本でもアイヌ語や琉球列島のことばは、明治時代以来、台湾の土着言語と同じように排除・抑圧され、現在では消滅の危機に瀕しています。また各地の日本語方言も話者がどんどん高齢化していますが、これも近代以降の標準語普及政策の結果です。このように考えると、日本にも言語問題は確かに存在し、ただそれが可視化されていないだけとも言えます。

また私たちが今使っている日本語も、安泰とは言えないかもしれません。近年、大企業の社内公用語が英語になったり、大学では英語で行われる授業が増えたりして、子どもを幼児期から英会話教室に通わせる親も増えています。今の日本はかつての台湾のように外来政権の支配を受けているわけではありませんが、多くの人が出世や経済的成功のために新しい言語を必死で身につけようとするのを見ていると、目に見えない何かに支配されているような気がしなくもありません。将来日本の若者が日常的に英語を話し、日本語は年寄りしか話さないような状況になった時、私たちは誰に向かって「母語を返せ」と叫ぶのでしょうか。

写真提供：吉田真悟

東京しま心物語

小笠原諸島 父島・母島の巻

ちょっと遠いけど…それがいい！

東京には人が暮らす11の島があります。それぞれの島に住む人に、島での生活やコミュニティ、特長などについてご紹介していただく連載です。

小笠原村は東京竹芝桟橋から南に約1,000km、概ね週１便の「おがさわら丸」に乗船し、父島で24時間、母島で26時間を要する船便が内地とつながる唯一の交通手段です。郵便や宅急便も１週間遅れで届きます。おがさわら丸の入港日は、生鮮食料品を求める住民の方々が商店に一斉に買い出しに集まり、毎回レジに長蛇の列ができるのは島の風物詩の一つです。

島の歴史は、文禄２（1593）年信州深志（松本）の城主、小笠原長時の曾孫、小笠原民部少輔貞頼が発見したと伝えられています。その後、江戸時代から明治・大正・昭和と続く激動の歴史の中、米国の統治を経て昭和43（1968）年６月26日に本土復帰しました。毎年６月末の週末には父島・母島において「小笠原諸島返還祭」が開催され島民や観光客の皆さんで大いに賑わいます。

平成23（2011）年６月にフランスのパリにあるユネスコ本部で開催された「第35回世界遺産委員会」において世界自然遺産として登録されたのは記憶にあたらしいところです。この年は八丈～父島・母島を結ぶ海底光ケーブルが敷設され、村のインターネット環境が劇的に変化した年でもあります。ちなみに設置前は、衛星回線でのISDNでダウンロードの実測値が７Kbps位だったと思います（今は７Mbps！！！）。NTT社屋の屋根にあるパラボラアンテナでの衛星通信だったので雨の時は…（涙）。メールすら送ることができなかったのは、今にしてみれば良い（？）思い出です。

島独特の食文化としては「亀料理」です！亀刺・亀煮込み等、昔は貴重なたんぱく源として重宝され、お祝いの席には欠かせない料理だったと聞いています。島にいらした際はぜひご賞味ください。その際、タイミングが合えば、月１回で交通安全活動中の「小笠原交通少年団」の太めの団長に会えるかも…。

（小笠原村社協　川本真裕）

子どもたちが先頭になって行う地域の交通安全活動は、島のみんなを巻き込んで、未来に繋がる思いやりの心を育みます。（子どもたちの前に立つのが筆者）

イラスト：ひびのさなこ

ネットワーク
本誌のバックナンバーは
右記からご覧ください。

～本誌395号より～

読者の声

読者の皆さんからいただいたアンケートの一部をご紹介させていただきます。

◆【特集】療養中の子どもの学びを考える

・療養中の子どもの学びがどのようなものか、自分を含む世間一般は実はほとんど知らないということに気付かされる、意義ある特集だと思いました。「学ぶプロセスは実はみんな同じ」ということばは、子どもの療養や特別支援教育に関わるのは専門家でないとムリ、と思い込みがちな私たちをハッとさせます。

・心温まる記事である一方、「困難さの背景に寄り添い工夫して学びを進めている姿を見て～」のくだりは、もう少し具体的に書いてほしかったです。誰の困難さで、どんな工夫をしているのか、知りたかったです。

◆【浅掘りメモ！近ごろ気になるコトバたち】

・短くて読みやすく勉強になる、とてもいい企画です。編集部的にはどのコトバ・ことがらを取り上げるか、どんな解説をつけるか…見識をも問われる気の抜けないページですね。

◆【東京しまじま物語】三宅島の巻

・三宅島の現状やボランティアが福祉教育の幅を広げたことなど、ポジティブなお話が聞けて良かったです。

◆【企業ボランティア・アワード】

・たくさんの企業がボランティアに関わっていることが分かり、とてもよかったです。記事のレイアウトもきれいで見やすく、QRコードなどの配慮があったこともよかったと思います。

◆せかいをみる ミネアポリス今昔物語【2】

・全く知らないアメリカ・ミネソタ州の話がとても身近に感じられ、大事なのは場所ではなく意志なのだと思えました。別の記事で都民のボランティア活動実態調査のレポートがありますが、それをミネソタ州でもやったら、どんな結果になるのだろうかと思いました。

◆いいもの みぃ～つけた！ HiwaHiwa アニマルコーヒー

・とても可愛いパッケージですね。インターネットで手軽に売買できるのもよいですが、福祉施設などの手作りの商品は、お客さんと直に対面して話をしながら売ることは、働くモチベーションの向上にもつながるため、よいと思いました。

お気軽にご意見・ご感想をお寄せください。

本誌で使用しているQRコードは、㈱デンソーウェーブの登録商標です。

東京ボランティア・市民活動センター
(TVAC: Tokyo Voluntary Action Center)
https://www.tvac.or.jp

東京ボランティア・市民活動センターは、ボランティア活動をはじめとするさまざまな市民の活動を推進・支援しています。どうぞご利用ください。

利用

会議室	会議室A・B(各40人)・C(15人)　無料 ※会議室AB通し(80人)
貸出機材	印刷機(1台)紙持ち込み、点字プリンター 他
申込み	4ヶ月前から電話で受付(03-3235-1171)

情報提供

最新のボランティア・市民活動情報は、センターのホームページでご覧いただけます。http://www.tvac.or.jp/

開所時間

火曜日～土曜日：9時～21時／日曜日：9時～17時
(月・祝祭日・年末年始除く)

交通アクセス

JR、地下鉄(東西線・有楽町線・南北線・大江戸線出口B2b)飯田橋駅下車

ネットワーク

発行人　山崎美貴子

編集委員　江尻京子(東京・多摩リサイクル市民連邦)
片岡紀子(患者スピーカーバンク)
小池良実(岡さんのいえTOMO)
小暮　剛(西武信用金庫)
小林涼帆(明治大学)
野村美奈(武蔵野会 リアン文京)

TVACの公式ソーシャルメディア

編集・発行：東京ボランティア・市民活動センター
〒162-0823 東京都新宿区神楽河岸1-1
セントラルプラザ10階
TEL：03-3235-1171　FAX：03-3235-0050
E-mail：nw@tvac.or.jp

印刷：島津印刷㈱
デザイン：東京ボランティア・市民活動センター／島津印刷㈱
表紙イラスト：フローラル信子

2025年6月20日発行(通巻No.396)
ISBN 978-4-909393-63-0 C2036
定価400円(本体364円+税10%)
本誌掲載記事の無断複製・転載を禁じます。

いいものみぃ〜つけた!

このコーナーでは、ボランティア・市民活動・福祉施設のグッズや作品を紹介します。

Vol. 54

カラフル♪ メジロックの雑貨たち

Session！TOKYO2024（主催：東京都社会福祉協議会知的発達障害部会）でメジロック商品を販売しました。

日々描かれた作品をファイルに保管。この沢山の作品の中から商品が誕生します。

左：ポストカード330円　右上：原画缶バッジ880円
右下：キャンドル770円

上：ノートブックL770円　M550円　S330円
下：ネックストラップ770円（全て税込）

豊島区にある区立目白生活実習所・目白福祉作業所のブランド“メジロック”です。メジロックは、2015年に魅力的な商品づくり、工賃*UP、福祉施設と地域がつながる場づくり、障害のある人の社会参加の機会づくりを目指し、職員と外部コーディネーターと共に立ち上げました。名前の由来は「目白」＋「ROCK（ロック）」。ロックフェスに行く若い世代をターゲットにと考えていましたが、活動の広がりとともにカラフルな作品が増え、次第に色彩豊かな商品ラインナップになりました。当初モノクロだったロゴマークも、カラフルなものへとバージョンアップしました。

障害のある利用者が自分の個性を生かし、「アトリエ」などで日々表現活動を行っています。利用者の得意なこと、楽しんでいることはなにか、一見「問題視」される行為も、視点を変えてみれば魅力や強みになるかもしれない！そんな思いの中から生まれたのがメジロックの商品です。

＊工賃：生産活動（仕事）を行った利用者に対して支払うお金。

社会福祉法人東京都手をつなぐ育成会
豊島区立目白生活実習所・目白福祉作業所

住　所　〒171-0031
東京都豊島区目白5-18-8

お問合せ　TEL　03-3953-4194
FAX　03-5983-2502
MAIL　mejiro@ikuseikai-tky.or.jp

WEB
https://mejiro.ikuseikai-tky.or.jp/

WEB
Facebook

写真提供：豊島区立目白生活実習所・目白福祉作業所

作り手インタビュー

工程のひとつひとつに、様々な人が手をかけてできあがる、『いいもの』。制作にまつわるお話をうかがいました。

日差しが射しこむ明るい室内。各人がなじみの席で創作に取り組む。

日々の積み重ねのなかで発見される、個性のカタチ。メジロックとは生活にとけこむ表現活動。

取材の日、生活実習所と福祉作業所の一室では、２つの事業所合同で「アトリエ」の活動が行われていました。職員の藤巻佳子さんと小野塚直也さんにお話をうかがいました。

―みなさん、もくもくと取り組んでいますね。この「アトリエ」の活動について教えてください。

メジロックのブランドが立ち上がってからしばらくして、なにかを生み出す場があるといいねという意見があがり、この「アトリエ」の活動がはじまりました。現在は毎月３回、２時間程度、生活実習所と福祉作業所から10名ほどが集まって、思い思いの表現活動に取り組んでいます。最近では近くの保育園から子どもたちが来所して一緒に活動する日もあります。

―どの作品も個性があって惹かれます。みなさんの個性はどのようにして作品になっていくのでしょうか。

利用者のみなさんが、なにが得意でなにを好きか、わからないことも多いのですが、職員には「みなさんのそばにいて探していこう」といつも話しています。たとえば、困ったなと思われる収集癖でも同じことを積み重ねていくなかで「これってすごい！」という瞬間があります。それを見逃さず「もっと続けてみようか」とか、「作品にしてみようか」とか、声をかけ続け、だんだんとかたちになっていくんです。なにかに集中したりこだわったりする姿に、まずは職員が気づけることが大事だと思っています。

段ボールを切って積む。毛糸の帽子を編む。手製の作業台で絵を描く。素材も作業スタイルも自由。職員と外部のコーディネーターがチームで活動をサポートしている。

―利用者のみなさんは、どのような受け止めをなさっていますか。

先日、Ａさんははじめて商品化されたグッズをお母さんにプレゼントしていました。パッケージに包まれた自分の作品を手にする姿はどこか誇らしげですし、励みにもなっているようです。もちろん、ひとつの作品になるまではうまくいくことばかりではありません。その過程を良く知っているのは職員で、作品の素敵なところを語ることができるのも職員だと思います。

ロビーで開催中の『コツコツやってま～す展』。ファイルで保管された膨大な作品のなかから一部が展示されている。

ボランティア・市民活動を広げ、応援する！
ネットワーク
2025年6月20日発行　2025年6月号　通巻396号　発行人　山崎美貴子　〒162-0823　東京都新宿区神楽河岸1-1　東京ボランティア・市民活動センター
定価400円（本体364円＋税10%）

Sompo Welfare Foundation

（公財）SOMPO福祉財団

2025年度主な助成金の募集（公募）

**社会福祉分野で活躍するNPOへの助成などを通じて、
地域福祉の向上に貢献することを目指しています。**

事業名 （募集時期）	事業の内容	対象となる団体 募集地域・助成金額
自動車購入費助成 （6/2～7/4）	自動車を購入する際の資金を助成	・特定非営利活動法人 ・**東日本地区**に所在する団体 （2024年度は西日本地区） ・１件170万円上限（総額1,700万円）
NPO基盤強化資金助成 **住民参加型福祉活動資金助成** （6/2～7/11）	地域住民が主体となって、包括的な支援を行う活動に必要な資金を助成	・５人以上で活動する営利を目的としない**法人格のない団体** ・**西日本地区** （2024年度は東日本地区） ・１団体30万円上限（総額450万円）
NPO基盤強化資金助成 **組織および事業活動の強化資金助成** （９月～10月上旬予定）	「組織の強化」と「事業活動の強化」に必要な資金を助成	・特定非営利活動法人、社会福祉法人 ・**西日本地区**に所在する団体 （2024年度は東日本地区） ・１団体70万円（総額1,000万円）
NPO基盤強化資金助成 **認定NPO法人取得資金助成** （９月～10月上旬予定）	認定NPO法人の取得に必要な資金を助成	・認定NPO法人の取得を目指す社会福祉分野の特定非営利活動法人 ・**日本全国** ・１団体30万円（総額300万円）

車いすでの送迎もできるようになりました♪

【自動車購入費助成】

ベッド型のプール専用車いすを購入し、安心して入水♪

【組織および事業活動の強化資金助成】

重症心身障害者のための避難訓練は、当事者だけでなく地域住民や行政との協働！

【住民参加型福祉活動資金助成】

外国ルーツの子どもたちへのサポートで、地域課題解決！

【認定NPO法人取得資金助成】

SOMPO福祉財団Web ⇒ https://www.sompo-wf.org/

ISBN 978-4-909393-63-0　C2036　¥364E